

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成30年度第1回近江八幡市総合教育会議														
開催日時	平成30年6月14日（木）10：00 ～ 11：30														
開催場所	市役所4階 第1委員会室														
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 小西理（◎）</p> <p>教育長 日岡昇 教育長職務代理者 高木敏弘</p> <p>教育委員会委員 八耳哲也 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◇職務により出席したもの</p> <table border="0"> <tr> <td>総合政策部長 江南仁一郎</td> <td>政策推進課長 太田明文</td> </tr> <tr> <td>政策推進課副主幹 夜野友昭</td> <td>政策推進課主事 橘直樹</td> </tr> <tr> <td>政策推進課主事 東諭史</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育部長 小林一代</td> <td>教育部次長 楠本茂樹</td> </tr> <tr> <td>教育総務課長 秋山直人</td> <td>教育総務課課長補佐 山元和夫</td> </tr> <tr> <td>教育総務課副主幹 武田善雄</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇傍聴者 無し</p>			総合政策部長 江南仁一郎	政策推進課長 太田明文	政策推進課副主幹 夜野友昭	政策推進課主事 橘直樹	政策推進課主事 東諭史		教育部長 小林一代	教育部次長 楠本茂樹	教育総務課長 秋山直人	教育総務課課長補佐 山元和夫	教育総務課副主幹 武田善雄	
総合政策部長 江南仁一郎	政策推進課長 太田明文														
政策推進課副主幹 夜野友昭	政策推進課主事 橘直樹														
政策推進課主事 東諭史															
教育部長 小林一代	教育部次長 楠本茂樹														
教育総務課長 秋山直人	教育総務課課長補佐 山元和夫														
教育総務課副主幹 武田善雄															
次回開催予定日	平成30年8月29日（水）														
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野、東</p> <p>電話番号 0748-36-5527</p> <p>メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp</p>														
会議記録	発言記録 ・ <input type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため												
内容	別紙のとおり														

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

市長

2. あいさつ、教育行政に係る市長方針

- 現代社会は、経済成長や少子高齢化を経て、成熟した社会へと変遷している。その対応を国の方針だけではなく、市としてどう対応するかの独自性を求められており、市の未来を決めるのがこの会議である。
- 教育の基盤は、以下2点と考える。
 - 1点目はコミュニケーション能力であり、いわゆる「読み、書き、そろばん」といった基礎的な能力が必要である。
 - 2点目は郷土愛であり、お互いの繋がりをベースとして、当市の歴史や文化についての共有が必要である。
- これらを基盤として、進めるために以下4点が重要である。
 - 1点目は、自然との共生。これまで自然の力を使うという観点で、食育も含めて様々な取組を行ってきたが、自分達の生命の起源として、自然と向き合い、見つめ直すことについて考えていきたい。
 - 2点目は、相手を敬う心を持つこと。欠点を指摘するのではなく、好きなこと、得意なことを褒めて伸ばすということが必要である。
 - 3点目は、コミュニケーションをとる機会の確保。これらを育むためには、歴史と文化の共有、自然との共生、相手を敬う心、コミュニケーションをとる機会の確保が大切である。
 - 4点目は、親への教育。教育大綱にも記載がある通り、教育は、学校だけでなく、子どもに身近な親も行うものである。このことから、親世代へのアプローチが必要である。
- いわゆる「学力」よりも、子ども達の個性や長所、好きなことを褒めて伸ばすことを大切にしたい。「読み・書き・そろばん」といった社会を生き抜く最低限の素養があれば良い。スポーツや芸術が好き、得意な人がその分野で輝けることは、とても素晴らしいことであり、様々な分野で活躍出来る人材が出てくる教育としたい。

3. 議題

事務局

(1) 平成 29 年度総合教育会議の報告について

- 資料 1、資料 2 に基づき説明
- 昨年度は、計 5 回開催。
- 平成 27 年度策定の教育大綱の改正を実施。内容の追加修正及び周知方法についての協議を行った。
- その他、市の教育行政が課題として抱えている就学前教育、特別支援教育に係る対応等について議論を行った。
- 教職員の働き方改革についても議論を行った。昨年度は教職員の働き方改革推進会議を設置し、本年度は教職員の働き方改革推進委員会を設置し、今年度以降も継続して、議論を続けていく。

事務局

(2) 平成 30 年度総合教育会議の進め方について

- 資料 3 に基づき、説明。
- 本年度は、今回の会議を含む計 4 回の開催を予定している。
- 会議時間は、各回 1 時間 30 分を目途とする。
- 今後の会議日程については、第 2 回を 8 月、第 3 回を 11 月、第 4 回を 2 月に予定している。
- 教育委員会で行っている教職員の働き方改革推進委員会の内容も共有をしながら、進めていく方針である。

市長

- ただいまの事務局案について、意見はあるか。

各委員

- 異議なし

市長

- 事務局案通り、進めることとする。

教育長

(3) 平成 30 年度教育行政基本方針及び重点施策について

- 資料 4 に基づき説明
- 昨今、少子化問題や地方創生が重要とされている中、市としての教育方針も非常に大切になってきている。
- 「たくましく生き抜く力」が大切であり、本市としては基本的な生活習慣の確立を目的とし、平成 18 年から『早寝・早起き・あさ・し・ど・う』を推進している。これは、早寝・早起きを推奨し、『あさ』はあいさつ、『し』は食事、

『ど』は読書、『う』は運動をそれぞれ表し、各小中学校にて取り組むようお願いをしている。

- 今年度より、小学校では、特別の教科「道徳」の授業が始まり、来年度から、英語の授業がスタートする。親は、学力向上を願っており、アクティブラーニングやカリキュラムマネジメントが重要である。
- 子ども達が学校で楽しんで過ごしていけるようになるには、「わかった」「出来た」という思いを持ってもらい、自尊感情を高めることが大切である。
- 教育大綱にも記載されているように、「ふるさと教育」をキャリア教育など様々な形で取り組んでいる。各学校でも教育課程の中で、しっかりと位置づけをし、取組を行う。
- 教育大綱に 16 番目の目標として「個の特性に応じた教育を推進します」を追加した。これは、学力だけではなく、運動や芸術が得意な子ども、皆に優しい子どもなどそれぞれの得意なことや特性を認め合える集団作りを各学校で進めることである。
- 特別支援教育や人権教育の充実が必要である。各学校にも、特別支援教育指導員を配置しており、こういった教育を理解できる親や子ども達を増やす。
- 県、市で取り組んでいるSDGsの関連として、商工会議所にも協力いただき、島小学校では学校農園で野菜を作り、自分達で調理をして味わうという取組をしている。今年度は、老蘇小学校でも同様の取組を進める予定。
- 教職員の働き方改革は、教職員の働き方改革推進委員会で検討していく。
- 教育現場では、ここ数年の大量退職の関係で若い職員が増えている。1～3年目の職員へは県での研修があるが、それ以降は6年目まで研修がないため、本市では4・5年目の職員を対象とした独自研修を実施している。
- ICT教育はモデル校を設置し取り組んでいるが、非常に活用が進んでいる反面、設備の老朽化が進んでいるため、対策が必要である。
- 学校規模は、大きい順に金田小学校、八幡小学校、安土小学校、岡山小学校となっている。各学区により規模が大きく異なるため、通学区域の弾力化を行ってきたが、今後は

通学区域の見直しも検討する必要がある。ただ、通学区域を変えるには地元自治会等の理解も必要である。

市長
委員

- 今までの話についての各委員の意見を伺いたい。
- 自分自身が学生の頃は、学校に行けば、最先端のものがあるという環境であったため、非常に学校に行くのが楽しかった。現在は、学校の現場が最先端ではないと感じる。
- 「教育は一日にしてならず、されど一日に教育がある。」と考えており、日々の教育が子ども達の生き抜く力となる。現場の先生方にも、このような想いをもって頑張ってもらいたい。
- 今は学校だけで全て対応できる時代ではなく、地域の方々も含めて教育を行っていく時代である。
- 教育のツールとして、ICT設備を上手く使っていくためにも、ICT教育の在り方は、将来を見据えた取組として、十分に検討していきたい。

委員

- 戦後、国の教育方針として、平等の教育を主にしていたが、もともと人間は平等でないと考えている。しかし、その不平等の中で、いかに公平に教育するかが大切である。
- 誰もが必ず何か良い特性や能力をもっているもので、それぞれの良いものをいかに認め合えるかが大切であり、その結果として学校でも皆の居場所が出来、いじめなどの問題も起こらないのではないかと考えている。
- 権利の裏付けである社会的責務を認識した親・子供を育てていければ良いと思う。
- 学校教育も大切だが、社会教育や生涯学習を通じて、自立した市民を育てるのも教育委員会の役割である。
- ふるさと学習を通して、ふるさとを正しく知っていただければ、ふるさとにどのような役割を果たせるかがわかる。そのためにも、まずは学校の先生に知ってもらうのが重要である。先生方に理解してもらい、いかに授業に活かすかである。「ぶらり八幡」を年2回しているが、そういった取組も市民にまで伝わっていないので、学校などから情報発信をしていくことも大切である。

市長

- 文化財は、市内に非常に多くあるが、文化観光の側面が強く、教育委員会から離れているように感じる。観光は観光で大切だが、文化財は教育委員会の範疇にあった方が良いのではないかと考えている。
- 今までの意見を聞いて、私の感想を述べる。
- 親は、子どもの教育は学力だけでなく、その先にある就職や収入ということまで考えていると感じる。
- 人権教育では多様性、つまり、違いを認め合うことが大切である。日本人は何でも意見を一致させようとする傾向にあると思うが、海外では違って当たり前という考えから、違いを認め合い、そこから議論が始まる。
- ICT教育は、立体的に見せることができるなど、ビジュアルに利点があると考えている。さらに効果的な使い方が何かを考えていかなければならない。
- 防犯の面などで難しい部分もあるが、学校と市民とはオープンな繋がりであってほしい。
- 観光資源として文化は大切である。しかし、逆説的な考えだが、文化をしっかりと守ることで、観光は盛り上がってくると思う。
- 文化を学ぶというのも学校教育で大切である。例えば、鮎ずしをつける、わらじを編むなどの体験も良いと思う。失われていく文化を、いかに残していくか、ということを検討したい。
- 他の委員のお考えも伺いたい。

委員

- 就学前教育は、当市では行政改革の中で、教育を保幼小中という縦線で考えていくという教育の在り方から、社会や子育て支援なども含めて変わってきている。しかし、今一度、教育という視点から就学前教育を考えていかなければならない。
- 100年前から、学区に一つ公教育を進めようという考えがあった。各地域の人々にも、子は宝という熱い思いがある。教育大綱に同じ考えがある。「子が育てば、親も育ち、地域も市民も育つ」という流れが出来ると考えている。

委 員

- 当市の就学前教育は、近年民間委託が進んでおり、その中でいかに地域の想いを伝えていくかが必要であり、地域の方々も不安に思っている。
- 特別支援教育、インクルーシブ教育については、通常学級における6%以上の子供が発達障がいなどであるといわれており、十分な教育体制を構築するには、支援員の数が現状の30人程度で十分かは検討する必要がある。
- 学校見学の際、発達障がいでも読み書きが難しいとされている生徒が、ICT教育でタブレットを使い、皆と楽しんで授業に取り組んでいるのを見て、非常に良いと感じた。一人一人に必要な教育を展開していくことが必要である。

- 他の委員とも意見が重なる部分もあるが、小学校に入学した1年生が椅子に座ってられない、お話を聞いてられない、準備が出来ないなどの問題が多い。それらの対応として、就学前教育が大切である。しかし、こども園などを民間委託すると「お勉強」が中心となり、本当の教育の基礎となる部分がしっかりと出来るかが不安である。
- 家庭教育や地域内の教育も大切である。学校で先生がなんとかしてくれると思っている親は多いが、家庭や地域でもしっかりと子供とコミュニケーションをとる必要がある。学校に任せていけば、子どもが育つという訳ではないことを親にわかってもらえるようになれば良いと思う。
- ICT教育は、学校見学の際に、黒板だけで授業を聞くよりも、電子黒板なども使うことで、気分転換になり、しっかりと授業に取り組んでいるように感じた。さらに環境の整備を進めていけると良いと思う。

市 長

- 各委員の意見でも出たように、就学前教育は、民間事業者だと「お勉強」が中心になってくる面もあるだろう。もちろん、それが特色でもあるが、公教育と民間との在り方を検討する必要がある。
- 先程も申し上げたが、ICT教育の在り方はしっかりと考える必要がある。
- 委員の中で、追加の意見はあるか。

- | | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校、中学校がどうすれば楽しくなるかを考えなければならない。 ● 勉強と遊びのメリハリが大切である。それを教育の中で実践していくべきである。 ● ふるさと学習で大切にしていることは、現場での体験を通して、面白いなということを何か感じてほしい。なんでも良いので、成功体験を積むことが大切である。それが認められるという流れのある教育であってほしい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教育委員はそれぞれ視点は違うが、教育に対する方向性は同じである。 ● 市長も含めて、学校見学に行くなど意見交換の場を増やしていければと思うので、市長にもその場所を設けてもらいたい。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● サッカーの乾選手のように世界で活躍する人をもっと増やしていけるようにしたい。 ● 教育現場、親、子どもたちの意見をもらいながら、「近江八幡で育ったから、自分はこんなに成長出来た」と思えるような教育が出来るように、教育委員の皆様と共に良い形を作っていきたい。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 各委員からの意見にもあったとおり、なにか一つでも良いので、「自分自身でこれをやった、出来た」と誇りを持つような子どもたちが育っていく近江八幡市になるような取組をしていきたい。 ● また、地元が好きだと言える子どもに育ってほしい。 ● 以上、全議題について終了とする。事務局からの連絡事項があれば、お願いします。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ● 次回の会議開催日程については、8月下旬を予定している。日程が決まり次第、後日改めて通知する。 |

4. 閉会

11時30分終了